

保護行政にメスを！

生活保護行政検証委員会 ▲

議員

本市の保健福祉行政に
対する市民の不信と不
安を払拭するため、生活保護行政
検証委員会が設置された。この委
員会を通して、これまでの本市の
保護行政にメスを入れる必要があ
るのではないか。

市長

同委員会には、本市で
起きた孤独死事例の背
景や経緯の検証など、生活保護行
政を含むセーフティネット（安全
対策）全般にわたる幅広い範囲で
審議をお願いしている。市として
も十分な審議のために、検証に必
要な情報提供や説明など最大限の
協力をしていく考えである。

また、審議を公正なものとする
ため、可能な限り審議内容を公開
し、アンケートやパブリックコメ
ントなどの市民参加の手法を活用
する。

なお、委員は学識経験者や福祉
の実務家など五名であるが、さら
に検証を補充・強化するため、国
の生活保護行政関係の委員を経験
した大学教授にも助言をお願いし
ている。

審議の結果は、真摯に受け止め
反省すべき点は反省し、今後の保
健福祉行政に反映したい。

若者の雇用環境の改善を！

議員

若者の就職率が極端に
落ち込んでいる大きな

要因の一つに、大企業のパートや
派遣・契約社員など、非正規雇用
の拡大があげられる。

そこで、若年労働者の正規雇用
を拡大するため、市内大企業に対
する働きかけを強力に行うべきで
はないか。

**産業学術 北九州地域の雇用情勢
振興局長** は、景気回復による新
規求人増加や、有効求人倍率の
上昇など改善の動きが見られる。
しかし、若者に限ってみると、雇
用環境は依然として厳しい。

このため、若者を対象とした求
人開拓事業により、正社員を中心
とした求人の掘り起こしや、市内
企業に対して正規雇用を促進する
働きかけを行っている。

また、若者ワークプラザでは、
若者の職業能力の開発や、きめ細
かい就業相談、職業紹介などの支
援を行っており、これまでに千人
近くが正社員として就職した。

今後も企業に対する働きかけと
あわせ、企業誘致などによる雇用
の受け皿の拡大や、職業能力向上
への積極的な支援を行い、雇用環
境のさらなる改善に取り組みたい。



若者ワークプラザ

漫画でまちにぎわいを！

(仮称)北九州市漫画ミュージアム ▲

議員

漫画文化の振興やまち
のにぎわいづくりを創
出するために、(仮称)北九州市漫
画ミュージアムの整備が検討され
ている。その機能や開設時期につ
いて尋ねる。

市長

本市は、松本零士氏な
どの著名な漫画家を多
く輩出しており、漫画を地域の資
源として活かせる可能性をもつて
いる。そこで、漫画文化の振興策
について調査を行い、また、漫画
家や漫画研究者などから様々な意
見を聴いてきた。

その結果、①漫画教室により人
材を育てるなどの創造・育成・交
流機能、②漫画を読み、親しむた
めの閲覧機能、③地元ゆかりの漫
画家などの足跡をたどるための展
示機能の三つの機能をもった施設
を整備することにした。

また、ソフト面でもこれらの機
能を活用して、幅広い年代を対象
とした様々なイベントを行いたい。
この施設は、民間が砂津地区に
建設予定の「(仮称)第二チャチャ
タウン」内に整備し、平成二十一
年度中のオープンを目途に検討し
ている。

高い技能を多くの人に 知らせよう

議員

マイスター、技の達人
認定者や文化的に貴重

なものを作っている人が、市に作
品の寄贈を申し出ても、受入体制
がない。

ぜひ体制を整えて、美術館や区
役所などで、マイスター展や技の
達人展を開催すべきではないか。

**産業学術 本市では、製造業の高
度技能者**を「北九州マ
イスター」、それ以外の分野の高
度技能者を「北九州技の達人」と
して認定している。

彼らのすばらしい技能や作品を
展示することは、市民に技能など
の奥深さと大切さを伝えるために
重要であると考えている。

そこで、技の達人については、
北九州空港で一部の作品を展示・
販売し、好評を得ている。さらに、
作品がある程度まとまった段階で、
技の達人作品展の開催を検討した
い。

また、マイスターについても、
産業技術保存継承センターで技能
を広く紹介する催しを考えている。
今後、市への作品寄贈の申出が
あれば、産業学術振興局が窓口と
なって、作者の意向をよく聞き、
関係部局と協議をして対応したい。

平成二十一年度開業を目指して

▼門司港レトロ観光列車 ▲

議員

観光列車は、門司港レ
トロ地区発展の起爆剤
として早期開業が望まれている。

今年度の新規事業として予算に
計上されているが、これまでの関
係機関との調整状況や開業予定に
ついて尋ねる。

経済文 これまでの調整状況と
化局長 して、①列車の運行と
鉄道線路の保有は別の事業者が行
う、②観光シーズンを中心に日時
を限定した運行をする、③運行事
業者に対して、事業収入と必要経
費の差額を市が補助することなど
があげられる。

また、計画では、門司港駅から
和布川公園塩水プール付近までの
約二キロを運行区間とし、途中二
か所に駅を設置する。その施設整
備の財源には、国のまちづくり交
付金などを活用する。

今後の予定として、まず今年度
は、基本協定の締結後、鉄道事業
法に基づく許可の取得手続きや、
話題性のある車両のデザインなど
に取り組む。

来年度は沿線の景観整備などを
行い、開業は北九州港開港百二十
周年にあたる平成二十一年度を目
指したい。

他に、次の項目にわたっ ても議論がありました

- 副都心黒崎の再生について
- 中学校給食の検討状況につ
いて
- 産婦人科・小児科医不足へ
の対応について
- 関門特別市構想について
- 公金収納のあり方について
など

今定例会の本案議の傍聴者数
は、7日間で1,022人で
した。